

関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA
THE 36TH SUBSCRIPTION CONCERT

第 36 回 定 期 演 奏 会



2003年9月14日[日]14:00

ザ・シンフォニーホール

主催 関西シティフィルハーモニー交響楽団
協賛 株式会社 ASK PLANNING CENTER



関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体 / 大阪文化団体連合会会員団体

1974年に、各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。近年は指導体制の充実に力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招請することにより、積極的に音楽面での向上を意図しており、“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会他を、意欲的に開催しています。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を重ねており、音楽的にも、組織としても充実してきたとの評価を内外から得ております。当団は、(社)日本アマチュアオーケストラ連盟の加盟団体として、その活動の一翼を担うべく、2004年夏に大阪で開催される全国アマチュアオーケストラフェスティバルのホスト団体として、その成功に向けて新たな意欲を以って臨もうとしているところです。現在団員数は、約100名を有します。

ごあいさつ



松田 斉

関西シティフィルハーモニー交響楽団
団長

本日は、私共の第36回定期演奏会によるごそお越し下さいました。
本日のコンサートでは、当団としては久しぶりに邦人作品を取り上げるようになりました。
しかも、定期演奏会での演奏は今回が初めてのことになります。加えて、ピエタミットの曲を演奏するのも今回が初めての経験です。
これに、ブラームスの燦し銀のような交響曲を組み合わせることによって、今日のプログラムは、対比の妙をお楽しみ頂けるのではないのでしょうか。
本日指揮をして下さる藏野雅彦先生は、国の内外を問わず活発な指揮活動をなさっておられますが、わけでも関西の楽壇では、プロのオーケストラは勿論のこと、大学オーケストラや社会人オーケストラを指揮して各方面で意欲的な演奏活動を展開しておられます。
そして、それらがいずれ劣らぬ熟演であり、聴衆はもとより、ご指導頂いた楽員にも大変好評であることから「是非当団にも!」とお願いして、今日のコンサートが実現いたしました。
藏野先生は、お住まいになっておられる京都から、何度も足繁く私共の練習にお付き合い下さり、六甲山の合宿練習にも2日間みっちりご指導頂きました。
本日演奏いたします曲は、私共にとっていずれも決して易しい曲ではありませんが、藏野先生の懇切なご指導の結果が、本日お聴き下さる皆様のお耳に伝わるような演奏でありたいと願っております。
末筆ながら、今後とも当団に対し、温かいご理解を賜りますようお願い申し上げます。

THE 36 TH SUBSCRIPTION CONCERT

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第36回定期演奏会

2003年9月14日[日]14:00 ザ・シンフォニーホール | 指揮 藏野雅彦 管弦楽 関西シティフィルハーモニー交響楽団

大栗裕 大阪俗謡による幻想曲

ヒンデミット ウェーバーの主題による交響的変容

1. Allegro
2. Turandot, Scherzo
3. Andantino
4. March

ブラームス 交響曲第4番ホ短調作品98

1. Allegro non troppo
2. Andante moderato
3. Allegro giocoso
4. Allegro energico e passionato

大栗 裕： 大阪俗謡による幻想曲

大栗 裕(1918~82)ほど大阪のにおいを色濃く作品に反映させた作曲家が他にいるだろうか。そのものズバリの「大阪俗謡」の題名がなにより彼の音楽の特質をよく表現している。彼は、大正7年に船場の小間物問屋の長男として生まれた。父は義太夫をたしなみ、大阪の伝統的響きを身近に育った。西洋音楽との出会いは天王寺商業学校入学に始まる。音楽部に入部、吹奏楽団でアルトホルンを演奏した。その中で音楽への情熱を燃やし、やがて独学で作曲を学ぶようになる。卒業後家業に従事するも、音楽への情熱を断ち切りがたく、出奔して東京に出て、プロのホルン奏者となった。東京交響楽団(現東フィル)、日本交響楽団(現N響)を経て、朝比奈隆の要請で1950年に関西交響楽団(現大フィル)に入団した。そして1955年の歌劇「赤い陣羽織」の成功以来作曲家としての活動を本格化することとなる。彼は多くのジャンルの作品を残しているが、特に吹奏楽とマンドリンの世界では超人気作曲家である。

「大阪俗謡による幻想曲」は朝比奈が初めてベルリンフィルに客演した際、同楽団の要望を受けて1955年に作曲された。1956年ウィーン・トンキュンストラ管弦楽団とベルリンフィルで演奏され大変な成功を収め、彼は東洋のバルトークと呼ばれた。以後朝比奈大フィルの海外公演の名刺代わりの作品となった。1970年に改訂され、本日演奏されるのはこの版である。1974年に作曲者による吹奏楽版が書かれ、1980年淀川工業高校が全国大会で取り上げて以来全国的に人気が高く、こちらがオリジナルと思っている人も多いほどである。またマンドリン版もよく演奏されている。曲は神事を思わせる序奏から始まりアレグロの部分で3つのメロディーが大阪の夏祭りを巧みに表現している。オーボエとフルートによる物憂げなメロディーを経て祭りは熱狂のうちにクライマックスに達していく。この曲を奏でながらみなさまと過ぎ行く大阪の夏を偲んでみたい。来年の夏が平和のうちに訪れることを祈りつつ。

多田博史(フルート)

ヒンデミット： ウェーバーの主題による交響的変容

シェーンベルクから同時代の作曲家により現代音楽が難解化する中、ヒンデミットの音楽は調性から解放されながらもバッハ以来の伝統を尊重し、現代と古典の融合により彼独自の斬新かつドイツ的な構成を持つ。この曲は、「ヒンデミット事件」として知られるナチスからの迫害をきっかけにアメリカに渡った後の作品で、交響曲「画家マチス」と並ぶ彼の代表作と言えよう。交響曲的な4楽章構成であり、テーマはウェーバーのピアノ連弾のための小品集と、劇音楽「トゥーランドット - 中国の謎かけ姫の物語」(プッチーニの未完のオペラで有名)から採られている。

第1楽章：Allegro

ハンガリー風の舞曲。中間部ではオーボエがほぼ原曲通りの素朴な旋律を奏でるが、伴奏は和声的に不安定である。テーマは複雑に対旋律と絡み合い、繰り返して変容されてこの曲を終える。

第2楽章：Turandot, Scherzo

冒頭のフルートによる主題の原曲は前述のトゥーランドットであるが、その原典は思想家ルソーが編纂した音楽辞典に「中国の歌」として紹介された旋律にさかのぼる。チェロに始まる主部のフーガは不協和なトリルを加えながら様々な楽器に受け渡され、一旦最高潮に至る。トロンボーンに導かれ展開される金管・木管・打楽器の各セクションによるアンサンブルは、ジャズ風でありながら見事な対位法に抛り、ヒンデミットならではの思わせる。

第3楽章：Andantino

木管ソロによる穏やかな主題が印象的な佳作である。トランキオを経た再現部では冒頭のテーマに長大で技巧的なフルートソロが彩りを添える。

第4楽章：March

原曲は葬送行進曲で、本楽章でも導入のファンファーレから木管楽器による主題にいたる過程は不安と緊張感に支配されている。中間部では一転して快活なテーマをホルンが提示し、華々しいコンサートマーチとして華麗に全曲を締めくくる。

織田克洋(ホルン)

ブラームス： 交響曲第4番ホ短調作品98

交響曲第4番は、それぞれひと夏で書き上げられた第2、第3交響曲とは異なり、1年をかけて入念に作曲されたブラームス最後の重厚な交響曲である。作曲当時、ブラームスは50歳を過ぎており、この交響曲の作曲手法的にはバロック時代やそれ以前の音楽の形式を多用している。特に第4楽章に使用されているパッサカリアは、バロック時代の古い形で、短い主題を主として低声部で何回もくりかえし、その各反復の上に変奏を築いてゆくというものであり、ブラームスがどれだけ古い音楽に興味を持っていたかということが想像できる。なお、交響曲第4番は1885年にマイニンゲンの宮廷劇場でブラームスの指揮により初演されたが、演奏が終わってから、特に公爵の希望で、再度、第1楽章と第3楽章が演奏されるほど好評だったという。

楽章解説の前に、アマチュアオーケストラとブラームスの交響曲の関係について少し触れておく。一般的にアマチュアオーケストラ奏者として1つの作曲家の交響曲全曲をすべて演奏できるのは、一生涯でブラームスの交響曲(全4曲)ぐらいであるといわれている(筆者も本日で達成する)。また、どの交響曲も演奏される機会は平均的であることもブラームスの交響曲の特徴である。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ

いきなり、ため息のような物悲しいテーマ(第1主題)で始まる。この曲の中で、この導入部の演奏が一番難しく、一番重要な部分であり、聴きどころである。第2主題は、チェロによって展開され、展開部へと入っていくという、お手本どおりのソナタ形式をとっている。なお、楽章の終わりの約2分間は圧巻である。

第2楽章 アンダンテ・モデラート

第1楽章の興奮も冷めやらぬまま、ホルンが第2楽章の始まりを告げる。ホルンと木管の序奏の後、クラリネットとヴァイオリンのピチカートが、この楽章の美しさを予感させる。このころには、聴き手もようやく第1楽章が過去のものになったことに気づく。そして、41小節目(約4分後)からの22小節目間は、この交響曲の中で最も美しい旋律が奏でられる。演奏していても涙が出そうになるこの旋律(しかし、奏者は冷静に演奏しなければならないことへの葛藤、聴衆になりたい一瞬である)。ブラームスは罪な作曲家である。もっとこのままで、もっとこの夢を見ていたい、このような希望はそう長くは続かない。やがて第3楽章が近づいてくる。交響曲は人生のようなものである。

第3楽章 アレグロ・ジョコーソ

夢を見ていたような第2楽章から、現実を引き戻される。第3楽章の始まりである。スケルツォに相当し、トライアングルが出現する。途中に感傷的な部分もあるが、終始テンが感よく進行していく。さあ、元気をつけて来るべき4楽章に備えよう。

第4楽章 アレグロ・エネルギーコ・エ・パッションアト

管楽器による8小節の音階風の単純な主題により楽章は始まる。そして、この後、この主題が8小節ごとにコーダまで31回の変奏を繰り返すという、巨大な変奏曲となっている。特に、第5~7変奏(約1分後)の弦楽器が奏する旋律は劇的である。また、単純な主題がどのように変奏されるか、そういった聴き方ができるのも本楽章の楽しみである。本楽章は総じて重厚である。その重厚さを保ったまま壮大に最後を締めくくる。

岡 雅樹(ヴァイオリン)

指揮

藏野 雅彦



MASAHIKO KURANO
conductor

1956年京都市に生まれる。

京都市立堀川高校音楽科(現市立音楽高校)を経て1979年東京藝術大学音楽学部卒業。

2002年文化庁新進芸術家海外留学制度在外研修員としてオーストリアに留学。

国立グラーツ芸術大学大学院指揮研究科に入学。

オーケストラ指揮法をマルティン・ジークハルト教授に師事。

またグラーツ州立歌劇場でも研鑽を積む。

1992年より本格的な指揮活動を開始する。

海外からの招請が多く92年から現在までにウクライナ・キエフ、ロシア・マリエル、ドイツ・ピュルツブルク、ドイツ・レーゲンスブルグ、オーストリア・グラーツのオーケストラ、歌劇場等より客演指揮者として度々招かれ好評を博す。

海外公演には「椿姫」「蝶々夫人」のオペラ公演も含まれいずれも大成功をおさめている。

1999年第13回京都芸術祭において京都府知事賞を受賞。

2000年には京都市より教育推進者表彰を受ける。

2001年の同志社交響楽団を率いての欧州公演では、ミュンヘン・ヘラクレスザール、グラーツ・シュテファニーエンザールにおけるマーラー 交響曲第1番「巨人」等の演奏で大成功を納め、また、京都市交響楽団との共演による京響市民合唱団公演でラターの「マニフィカート」を指揮し好評を得た。

京都大文字国際交流音楽祭には4年連続して出演し、「答えのない質問」をはじめとする、本邦初演を含むアイヴズ作品を指揮。

さらに2002年から3年にかけて、大蔵流狂言、若林轍(VI)、東京都響、神奈川フィル、仙台フィル、大阪フィル、京響のメンバーとの共演によるストラヴィンスキー「兵士の物語」を、京都、東京、奈良の3都市で指揮し大きな話題を呼んだ。

国内では京都市交響楽団、大阪市音楽団をはじめ多くのオーケストラ、吹奏楽団、合唱団を客演指揮。またKBSTV「京の響」に出演。

海外ではウクライナ・ナショナル交響楽団、ロシア・マリエル国立歌劇場、同管弦楽団、キエフ国立シェフチェンコ歌劇場管弦楽団等を度々指揮している。

2004年1月には八幡市民音楽祭音楽監督として、マーラー 交響曲第2番「復活」を指揮、また同年3月、ロシア最高のオーケストラのひとつ、国立ノヴォシビルスク・アカデミー交響楽団の定期演奏会に客演指揮者として登場、マーラー、ヒンデミット、R.シュトラウスの作品を指揮する予定である。

指揮を小泉和裕、田中良和、伊吹新一の各氏に師事。現在、京都教育大学、同大学院、京都市立音楽高等学校で教鞭をとり後進の指導にもあたっている。

関西シティフィルハーモニー交響楽団 団員名簿

VIOLIN

西田 美音子
飯田 裕美
稲谷 亜季子
岩井 哲也
上阪 美保子
岡 雅樹
小野寺 慶太
加藤 孝司
加藤 裕紀子
川井 裕史
河盛 晶子
神田 靖子
北村 栄祥
桑野 祐子
古賀 康仁
斎藤 良子
佐川 眞佐子
佐向 恵子
隅谷 恭子
高橋 浩二
谷所 幸子
豊島 直子
中川 雅登
中谷 日出夫
中谷 道代
難波 千里
西川 友理子
西村 悠美
花村 美佳
廣瀬 知華
藤田 恵子
森川 裕
山本 真弓
吉岡 弓子
Robert Templeton
和久 景子

VIOLA

秋山 久雄
井戸 義訓
入江 隆
太田 真紀子
川端 成彬
白井 恵子
田中 景子
橋本 敏彦
坂東 佑二郎
福田 文治
松本 光世
吉川 由佳子

VIOLINCELLO

阿保 幸雄
岩田 倫和
奥野 平人
片山 直久
国芳 真紀子
坂元 正三
豊島 正
富樫 誠
中村 郁
橋本 美代
廣瀬 恵子
藤井 綾

DOUBLE BASS

稲葉 杏子
岡田 志穂
計盛 創
隅谷 正一
高橋 はるか
長岡 豊
萩尾 善正
福田 香絵
安近 紀子
渡辺 昭一

FLUTE

芝野 均
丹波 博子
多田 博史
渡辺 和雄

OBOE

岡田 啓
高谷 利枝
波留 ひとみ
石川 由夏(客演)

CLARINET

上田 珠智
芝野 範子
細野 巖
山中 聡子

BASSOON

市川 里美
一ノ瀬 圭子
上川畑 良子
山科 みどり

HORN

安彦 高志
織田 克洋
橋 逸平
中谷 星子
西山 順子
山科 幸生
松本 治夫(客演)

TRUMPET

残熊 祐治
廣橋 誠司
森 修二
山田 浩之

TROMBONE

柏岡 亨
金 昌信
松田 斉
八木 誠(客演)

TUBA

藤川 健

PERCUSSION

田村 千春
上柿 泰平(客演)
上住 真一(客演)
仁科 太佑(客演)
平瀬 光代(客演)
守 葉子(客演)

トレーナー

谷野 里香(常任)
池田 重一子
市野 桂英
岩井 樹帥
高 昌樹
中谷 葉子
藤井 真帆
団長 松田 斉
副団長 柏岡 亨
運営委員長 山科 幸生
チーフパトリージャー 阿保 幸雄
運営 川井 裕史
隅谷 正一
総務 富樫 誠
森 修二
山本 真弓
インスペクター 廣橋 誠司
会計 岡 雅樹
国芳 真紀子
田村 千春
団費 一ノ瀬 圭子
坂元 正三
佐向 恵子
人事 入江 隆
広報 岩田 倫和
上川畑 良子
細野 巖
ライブラリアン 井戸 義訓
エキストラ エキストラ 桑野 祐子
楽器 金 昌信
友の会 加藤 裕紀子
団外活動 太田 真紀子
小野寺 慶太
会計監査 長岡 豊

...コンサートミストレス・コンサートマスター

...パトリージャー

関西シティフィルハーモニー交響楽団 クリスマス・ファミリーコンサート

当団元常任指揮者のスルジッチ先生が、この演奏会のためにクロアチアから来日!息の合った演奏をご期待下さい。

日時 2003年12月21日(日) 15:00開演 [14:00開場]
 場所 池田市民文化会館アゼリアホール
 入場料 前売り500円、当日800円(チケットは池田市民文化会館 他に発売中)
 指揮 ブラタン・スルジッチ
 (ザグレブ放送交響楽団芸術監督・当団元常任指揮者)
 曲目
 ・ガーシュイン「パリのアメリカ人」
 ・ラヴェル「ボレロ」
 ・アンダーソン「そりすべり」「ワルツィング・キャット」
 「クリスマス・フェスティバル」他

関西シティフィルハーモニー交響楽団 第37回定期演奏会

指揮者の伊藤翔さんは弱冠22才(桐朋学園大学指揮科学生)ながら、新進気鋭の若手として注目されています。要チェックですよ!

日時 2004年3月27日(土)
 場所 ザ・シンフォニーホール
 指揮 伊藤 翔
 曲目
 ・シューベルト 交響曲第7番(旧8番)「未完成」
 ・ブルックナー 交響曲第9番

第32回JAOフェスティバルコンサート in 大阪

全国のアマチュアオーケストラから選ばれた腕利きプレーヤーによるJAOフェスティバルオーケストラが、西本智実さんをはじめとする一流指揮者の方々と共演する、素晴らしいコンサートです!

日時 2004年8月22日[日]14:00開演(予定)
 場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
 指揮 栗田博文・森悠子・西本智実
 演奏 JAOフェスティバルオーケストラ
 曲目
 ・シベリウス:交響曲第2番
 ・チャイコフスキー:弦楽セレナード
 ・ムソルグスキー「ラヴェル編曲」展覧会の絵
 チケットその他、ただ今準備中です。

当団はこのフェスティバル運営のホストオーケストラとして、ただ今、企画や準備を進めております。

ホームページのお知らせ

関西シティフィルハーモニー交響楽団

当団のホームページでは、演奏会の情報や演奏曲の解説(かなり詳しいので、団員もこれを見てお勉強!)をはじめ、日常の活動の様子、コンミスのメッセージ、過去の演奏のデータ等、盛り沢山のコンテンツで皆さまのご来場をお待ちしております。一度覗いてみて下さい!!

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/kcpo>

当楽団のホームページは「クラシック音楽情報センター(<http://www.musicinfo.com>)」より、サーバーの無償使用の協力を得ています。

「関西シティフィルハーモニー交響楽団友の会」 会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集しております。会員になられますと

当団主催演奏会のご案内
 特別優待価格でのご入場
 友の会特別席のご用意
 等の特典があります。入会金、会費無料!!

本日このプログラムに挟み込んである緑色の用紙でお申し込み下さい

ただ今、団員募集中。

当団では現在、ヴァイオリン・打楽器・ハーブの団員を募集中です!(オーケストラの経験者を希望)
 練習日時 毎週土曜日 夜6:30~9:30
 練習場所 北出音楽事務所
 (JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)
 お問い合わせは事務局まで。[0729-58-4585]
 なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。